

JP250 4 時間耐久ロードレース ライダーズプリフィンング資料

2023/7/7
競技監督

1. 注意事項

- ① 走行中、ライダーは必ずライダー腕章を両腕上部に着用しなければならない。
【Rider BLUE】…青色 【Rider YELLOW】…黄色 【補欠ライダー】…赤色
- ② タイムテーブルは進行に伴い、時間が変更される場合があるので、場内放送に注意すること。
- ③ 走行には、ヘルメットリムーバーを着用し必ず車検に合格したヘルメットを使用すること。
使用する予定のヘルメットは全て車検に持ちこみ、検査を受けること。
- ④ 転倒もしくは負傷したライダーは、迅速かつ的確なレスキュー活動の為に、メディカルパスポートをいつでも提出できるように準備しておくこと。
- ⑤ 予選通過基準タイムの対象は各ライダー個人のタイムとし、自身の所属するグループで最も早いライダーのタイムの115%以内のタイムを計測していなければならない。
- ⑥ 登録ライダーのうち1名でも、1. 注意事項 ⑤ に記載されたタイムを満たせない場合、そのチームは決勝レースに出場できない。

2. コースイン・ピットイン時の注意

- ① ピットアウトしてコースインするライダーは、第2コーナーを通過するまでコース右端に沿って走行すること。コースインは各自の責任において行わなければならない。走行車両との合流に対し最大限の注意を払い、後方から近づく車両の走行を妨げないように行うこと。
- ② ピットレーンよりトラックに合流する車両は、白線を越えて走行してはならない。
※違反した場合はペナルティを科す。
- ③ ピットインする際は、130R 手前より走行ラインをコース右端に取り、手を挙げるなどして後続に十分アピールし、安全を確認してピットインすること。
- ④ ピットレーンの制限速度は、60km/hとする。

3. 決勝レースについて

- ① 50 番ピット付近にて車両のスタート前チェックを行う。オフィシャルの指示に従ってチェックを受けること。
あわせてドライタイヤへのマーキングも行う。スタート前チェックは時間厳守とし、必ずタイムテーブル、スタート進行表を確認し時間内に完了すること。完了していない場合、決勝レースへの参加は認めない。
- ② サイティングラップからグリッドに戻ったライダーは、オフィシャルが赤旗2本を静止提示している場所で一旦停止しエンジンを切らなければならない。その後各競技車両をライダーまたはチーム員が押し、歩いて指定グリッドに着くこと。その際にライダーは降車または乗車のままグリッド位置まで移動しても良い。
- ③ サイティングラップ後、グリッド上においてタイヤウォーマーのためのジェネレーターを使用しても良い。
ジェネレーターは競技車両1台につき1台とし、自身の車両の近くに設置すること。
- ④ 天候・その他状況に問題がなければ、ル・マン式スタート方法を用いる。
- ⑤ 競技車両は、ウォーミングアップ終了の時間とともにプラットホーム側のポジションに整列し、スタートライダーはスタート1分前までにグランドスタンド側の点(ドット)に整列すること。
- ⑥ 競技車両を支えるペアライダーも、ヘルメット・レーシングスーツ・ライディングブーツを着用すること。
エアバッグ装着補助員はピットクルーへ登録かつ、スタート補助申請書にて申請したメカニック1名であること。エアバッグ装着補助員は、作業衣(長袖長ズボン・靴)、2輪用ヘルメット、及び腕章を着用すること。
- ⑦ スタート合図は、18番グリッド付近での国旗の振り上げによって行なわれる。スタート合図があった後、ライダーはコースを横断して自分の車両に駆け寄りスタートする。スタート合図の国旗の振り上げまで、ライダーはスタート位置マークから足を離すことは認められない。国旗の振り上げ前にスタート位置マークから離れたチームは、ストップ&ゴーペナルティを科す。(「STOP」の文字と車両ナンバーを付したボードがコントロールラインのフラッグ台と24番ポストにて掲示される。)

- ⑧ ル・マン式スタートでは、特に上位グリッドのライダーは後方からの車両との衝突を避ける為に、スタート直後は、極力コースの右側を走行すること。
- ⑨ ペアライダーによる押しがけスタートは全車がスタートし「PUSH」ボードを提示したら許される。提示箇所はコントロールラインのフラッグ台(00P)及びスタートラインのフラッグ台(01P)とする。
※エアバッグ装着補助員による押しがけは禁止。
- ⑩ 決勝スタート後、コンクリートウォールを超えられないペアライダーはストレートからの退出用にゲート(ル・マン式 8 番グリッド及び 35 番グリッド横)を開放する。速やかにゲートへ向かうこと。

4. 走行にあたっての注意事項

- ① レースおよび予選中に、スロー走行を余儀なくされた場合には、周囲の状況を把握し、レコードラインを避けるなど、安全面の注意を払って走行すること。また車両を止める場合には、マシンが動いている間にグリーン上の安全な位置まで進み、コース上に車両が止まることのないようにすること。
- ② 白煙やオイル漏れなど重大なマシントラブル等が発生した場合は、無理にピットまで戻ろうとせず、直ちにコース脇のグリーン奥へマシンを止めること。その際、コース脇での作業等は絶対に行わないこと。転倒車が出したオイルにより、後続車が巻き込まれた重大事故が多発しており、転倒車があれば、オイルが出ている可能性があることを十分認識して走行すること。
- ③ **決勝レース以外は、東ショートコースを含めたエスケープロードを使用して、ピットインすることは一切禁止する。違反した場合は、再コースインは認めない。** 決勝レースでは、当該周無効とする。
- ④ 決勝レース中、コース脇でストップしたライダーがエスケープロード等を使用してピットへ戻ることを希望する場合、オフィシャルの指示に従うこと。
- ⑤ エスケープロードを使用してピットへ戻る場合、エスケープした地点から自ピットへ戻るまで自走してはならない。なお、工具による修理も認められない。
- ⑥ 決勝中、コース内のエスケープロードを使用した場合、並びにピットレーン出口よりピットへ戻る場合には、当該周無効(ショートカットした周回はカウントされない。)とする。ただし、T16(最終シケイン1)から最終コーナー付近で転倒した場合のみ、安全の為ピットロードへショートカットして自ピットで点検することを条件に罰則は科さない。
- ⑦ ストップ位置に関わらず、コース脇で車両をプッシュする際は、必ずオフィシャルの指示を受けること。
※コース脇で車両を押して移動している場合、各ポストで「PUSH」ボードを提示する。
- ⑧ 決勝レース中にシケインのショートカットをしたことで優位になったと判断された場合は、ストップ&ゴーペナルティ、またはタイム加算が科される場合がある。

5. ピットストップについて

車両が燃料補給あるいはライダー交代のためにピットストップした時は、必ずエンジンを停止すること。
決勝レース中最低 3 回、燃料補給を伴うピットインを義務とする。給油量は任意とするが、必ず補給作業を行なうこと。燃料補給時には必ずライダー交代を行なわなければならない。
ライダー交代は、**車両がピットレーン出口の白線を通過した時に完了とみなす。**

6. セーフティカーの運用について

- ① ライトが点滅した 2 台のセーフティカーが「第 1 コーナー手前」と「ヘアピンカーブ過ぎ」から同時にコース上に導入される。この瞬間から、すべてのオブザベーションポストには SC ボードと黄旗が振動表示される。
- ② すべての競技車両は、セーフティカーを先頭にして追い越すことなく一列縦隊に並ぶこと。その際、集団の後方に追いつけないライダー、隊列を維持することが困難となった場合や集団のスピードについて行けないライダーは後方に合図等をしてラインを外し後方の競技車両を先に行かせること。状況に応じて黒旗で対処する場合がある。
- ③ 競技監督によりセーフティカーの呼び戻し指示が出されたら、セーフティカーは次のセーフティカーポストを通過後、ライトを消灯する。その後、一台は「T9(デグナーカーブ 2)」を通過後右側のセーフティゾーンへ退避し、もう一台は「T18(最終コーナー)」より 4 輪ピットロードへ退避する。
同時に全てのオブザベーションポストで掲示されている黄旗と SC ボードは撤去され、この時点からレース状態に戻る。

7. 赤旗後のレース再開について

- ① レース再開は、次の3つのケースに分けられる。(以下ケース A・B・C と呼ぶ)

【ケース A】

トップおよびトップと同じ周回を走っていた残りの競技車両が3周未満の場合、当該レースは無効となり、全く新たなレースとして再開する。

【ケース B】

トップおよびトップと同じ周回を走っていた残りの競技車両が3周以上(3周を含む)を完走し、決勝レース時間が2/3時間未満の場合は、第2レースとして行う。

第2レースのスターティングポジションは、赤旗が提示された前のトップおよびトップと同じ周回を走っていた残りの競技車両がコントロールラインを通過した週の通過順とし、スタートライダーは自由とする。

レースの最終結果は複数のレース周回数を合算し、最大数の周回チームが優勝となる。

周回数が同数の場合は、最終レースの結果が優先される。

【ケース C】

決勝レース時間が2/3時間以上走行していた場合は、レースは成立したものとする。

順位はレース中、赤旗が提示された前のトップおよびトップと同じ周回を走っていた残りの競技車両がコントロールラインを通過した週の通過順とする。

- ② 再レースのスタートも、マン方式を用いるが、天候、その他の状況により変更する場合がある。

8. 赤旗時の対応について

- ① ケース B、及びケース C の場合のみ、以下のエリアをパークフェルメとして車両保管を行う。



- ② ピット前で作業中の車両は作業を直ちに中断すること。
- ③ 走行中、ピット作業中に関わらず、全ての車両が自己ピット前のパークフェルメへ誘導される。車両を動かすことができない状態の場合は、オフィシャルに報告すること。
- ④ オフィシャルの指示が出たら、1名のメカニックはスタンド等で車両を保持すること。しかし、その他の作業は一切できない。
- ⑤ スタンド掛け作業ののち、ライダーおよびメカニックはマシンから離れること。
- ⑥ 再開時間等がアナウンスされるのでパッドック放送、モニターのテロップに注意すること。
- ⑦ コントロールラインのフラッグ台(00P)及びスタートラインのフラッグ台(01P)のグリーンフラッグ合図により作業を再開することができる。
同時にサイティングラップからスタート手順が開始される。(5分後にピット出口は閉鎖される。)
- ⑧ 車両を押してグリッドに移動することは認められず、サイティングラップに参加できないライダーはピットスタートとする。
- ⑨ スターティンググリッドについたことが確認された段階で「スタート1分前ボード」が提示される。
- ⑩ 以降、通常のスタート手順とする。

9.ピット作業について

- ① ピット作業は、登録されたピット要員およびライダーが行わなければならない。
燃料補給時にチーム監督、サインマンが、消火器を持って待機することは認められる。
- ② スペアタンクに交換する際には、空の状態に取り付け作業を行わないといけない。
燃料の充填は、スペアタンクに交換後に行わないといけない。
- ③ ピットレーンでは、先にファストレーンを走行している競技車両に優先権がある。
ピットアウト時は、ピットインしてくる車両に十分注意すること。
- ④ 予選中及び決勝レース時のコンディション変更に伴い、使用しているタイヤの交換が認められる。
作業時は必ずエンジンを停止して行うこと。電動及びエア工具の使用は禁止する。

10.給油作業について

- ① ピット作業を終えた後の給油作業に備え、ピット作業を行っている間に許可された人数の補給作業要員が車両に触れないことを条件に車両に接近してスタンバイすることができる。
- ② 燃料補給中は、燃料補給以外の作業は一切禁止される。
(スクリーン清掃・ホイールのマーク合わせ等も含む)
- ③ 燃料補給は車両が安全にスタンドで支持された状況下で行わなければならない。
(スタンドの構造・支持方法は問わない。)
- ④ 燃料補給中ライダーは、マシンから降りていなくてはならない。
- ⑤ 燃料補給時、補給作業に携わる全員は目の保護具を含め、適切な防火服を着用しなければならない。(フルフェイスヘルメットを着用する場合は、必ずシールドを下ろすこと。)
- ⑥ 燃料補給時、消火器待機要員は消火器の安全ピンを抜き、ノズルを車両側に向けて待機すること。
作業終了後は安全ピンを戻すこと。
- ⑦ ライダースーツによる給油作業は行えない。
- ⑧ 各チームは作業に直接携わっているメカニック以外は 1.5m 以上 競技車両から離れ、オフィシャルが競技 車両周辺を巡視できるだけのスペースを確保しなければならない。

11.レース終了:その他

- ① レース終了時刻は 17:30 とする。
- ② チェッカーが振られると同時にピット出口は閉鎖され、これ以降のコースインは出来ない。順位認定はチェッカーを受けた者が優先される。チェッカーが振られている周にピットイン及びピット内、コース上にストップしている車両はこれらのグループの後になる。チェッカーフラッグは 5 分間表示される。
- ③ インター4hours/ナショナル 4hours 各クラス 1 位～3 位の選手はポディウムにて仮表彰式を実施する。ペアライダーも出席すること。
- ④ レース終了後 各クラス 1 位～6 位までの車両は暫定結果発表後 30 分以上保管され、必要に応じて検査される。この検査を拒否する事はできない。
- ⑤ 脳震盪について
脳震盪は頭部への直接または間接的な衝撃によって起こる脳機能障害です。特に短期間に二度の脳震盪を起こすことは非常に重大な障害をもたらす恐れがあり、また、症状を抱えたまま走行することは他のライダーに危険を及ぼす恐れがあることから、脳震盪が疑われる場合、医療機関で受診して下さい。

12.使用燃料について

- ① 使用する燃料はサーキット内で供給されるものを使用しなければならない。
- ② 前回使用したガソリンが混ざることのないよう注意すること。

以上